

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

白山手取川ジオパークを活用したプロモーション事業

2 地域再生計画の策定主体の名称

白山市

3 地域再生計画の区域

白山市の全域

4 地域再生計画の目標

白山市は、平成17年2月1日に1市2町5村が広域合併して誕生した自治体で、県内最大の面積（754.93 km²）を誇っている。県都金沢市に隣接し、日本三名山の一つ白山から日本海まで、そしてそれをつなぐ一級河川手取川流域に広がる扇状地を含む広大な市域は豊富な自然と美しい景観に恵まれており、かつ、地域ごとに独特の伝統文化や生活様式が色濃く残されている。

このように、広域合併した白山市では、合併後の地域を一つにつなぎ、市の一体感を生み出す施策を検討していた中、市内の地質・地形をはじめ、豊かな自然資源等が市域全体でつながることや、地域資源を保全しながら活用していくジオパークの取り組みと市の目指す目的が合致したため、白山手取川ジオパークとして、ジオパークを推進することとした。

白山手取川ジオパークは、「山—川—海そして雪 いのちを育む水の旅」をテーマに、白山の頂から手取川、日本海に至る白山市全域をエリアとして、その豊かな自然や地域資源をはじめ、歴史や伝統・文化などを一つのストーリーでつなぎ、地域の魅力の再発見、地域づくりに向けた活動が評価され、平成23年に日本ジオパークの認定を受けた。

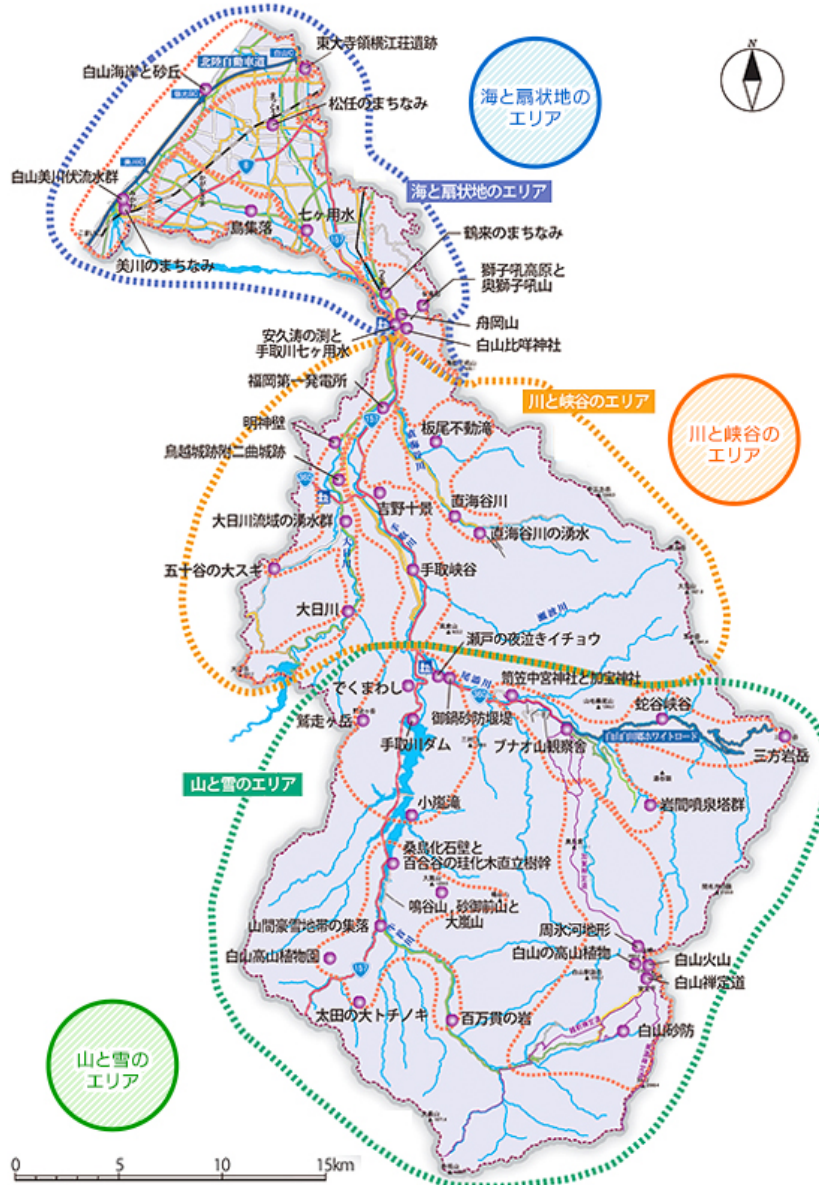
以来、ジオパークをツールとして継続的な活動を進めているところであるが、さらなる地域の魅力アップを図るためには、情報発信や拠点となる施設の整備改善、地域資源を活かしたイベントの開催やツーリズムの充実など、さまざまな取り組みを進める必要がある。

そこで、本計画では、白山手取川ジオパークを活かしたプロモーション事業を展開し、広く国内外へPRすることにより白山市の魅力アップ、誘客促進につなげていき、持続可能な地域づくりに努めるとともに、ユネスコの正式事業化となり、国際的にも注目されてきている世界ジオパークの認定を目指す。

【数値目標】

事業	白山手取川ジオパークを活用した プロモーション事業		年月	
	KPI	ツアー参加者数		観光入込客数
申請時	-		5,200,000 人	H29.3
初年度		150 人	5,300,000 人	H30.3
2年目		250 人	5,400,000 人	H31.3
3年目		400 人	5,500,000 人	H32.3

白山手取川ジオパーク エリア・サイト図



5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例
(内閣府):【A2007】

(1) 事業名: 白山手取川ジオパークを活用したプロモーション事業

(2) 事業区分: 観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

ジオパークとして継続的な活動を進め、さらなる地域の魅力向上を図るためには、情報発信や拠点となる施設の整備改善、地域資源を活かしたイベントの開催やツーリズムの充実など、さまざまな取り組みを進める必要がある。

そこで、本計画では、白山手取川ジオパークを活かしたプロモーション事業を展開し、広く国内外へ PR することにより白山市の魅力向上、誘客促進につなげていき、持続可能な地域づくりに努めるとともに、ユネスコの正式事業化となり、国際的にも注目されてきているユネスコ世界ジオパークの認定を目指す。

(事業の内容)

○ジオパーク誘客推進

白山手取川ジオパーク推進協議会(行政、市民、大学、教育・商工・農林水産関係の各種団体で構成)が主体となり、白山手取川ジオパークの山から川、海に渡って繰り広げられる水の循環「水の旅」・「石の旅」をキーワードとする大地の成り立ちとそれに関わる多彩な歴史や文化、産業といった価値や面白さを紹介するジオツアーの企画実施やPR宣伝に取り組んでいるが、世界ジオパークの認定を目指すには、認定ガイド制度の整備によるガイド付きツアーの実施体制やジオパークの拠点再整備などの改善すべき点や課題がある。

こうしたことから、課題の整理及び内容の見直しを行い、魅力的なツーリズムの確立に向けて、認定ガイド制度の導入をはじめ、白山市観光連盟、旅行業者及びバス事業者との連携により、ガイドマニュアルの作成、ガイド養成講座の実施による人材の育成、ツアーの造成などを総合的な取り組みとして実施し、誘客促進につなげる。

また、白山手取川ジオパークエリアのさらなる魅力向上を図るため、情報発信の拠点となる施設の機能強化を推進するとともに、ジオパークエリアを活用したフォトロゲイニング大会などの集客効果の高いイベント・大会を開催し、国内外への情報発信と誘客促進につなげる。

市は、これらの事業の企画段階から深くかかわり、各種団体との調整を図り、事業実施に係る経費の全額を負担金として支出する。

初年度) 白山手取川ジオパーク推進協議会において、白山市観光連盟、旅行業者及びバス事業者と連携しながら、認定ガイド制度に向けたプログラムの策定に取り組むとともに、ガイドマニュアルの作成やガイド養成講座を実施し、人材の育成に努め、魅力ある新たなツアーの造成を企画する。

また、パーク獅子吼、石川ルーツ交流館等の観光・文化施設や道の駅施設内にある白山手取川ジオパーク関連の解説案内板を多言語表記に変更し、情報発信施設の機能強化を推進する。

市は、事業の企画調整、各種団体との協議調整を行うとともに、事業実施に係る必要な経費を負担し、事業実施を支援する。

2年目) 前年の事業実績を踏まえ、引き続き、白山手取川ジオパーク推進協議会において、ガイド養成講座を実施し、人材の育成に努めるとともに、魅力あるツアーの造成を企画する。

引き続き、施設内の白山手取川ジオパーク関連の解説案内板を多言語表記に変更し、情報発信施設の機能強化を推進する。

市は、事業実施に係る必要な経費を負担するとともに、フォトロゲイニング大会などの集客効果の高いイベント・大会の開催を委託実施する。

3年目) これまでの事業実績を踏まえ、白山手取川ジオパーク推進協議会において、ガイド養成講座を実施し、人材の育成に努めるとともに、魅力あるツアーの造成を企画する。

引き続き、施設内の白山手取川ジオパーク関連の解説案内板を多言語表記に変更するとともに、白山手取川ジオパーク推進協議会のホームページをリニューアルし、情報発信を強化する。

市は、事業実施に係る必要な経費を負担するとともに、市立博物館の展示室の一部において改修工事を行い、新たにジオパークコーナーを設置し、誘客促進につなげる。

○ジオパークプロモーション活動

白山手取川ジオパークを広く啓発するため、白山手取川ジオパーク推進協議会において、地域の遺産や自然資源などについて調査研究を含め展示紹介するとともに、遺産や資源の保護・活用をテーマとして、海外の関係者を招いた国際シンポジウムを開催し、資源の保護保全についての意識向上と交流人口の拡大に向けた国内外への情報発信に努める。

また、ジオパークに因んだ産品認証制度の確立や、イメージキャラクターの機能強化を図ることで、広く国内外へPRするとともに、来訪者に対する地域の魅力向上に努め、誘客促進につなげる。

市は、事業の企画段階から深くかかわり、各種団体との調整を図り、事業実施に係る経費の全額を負担金として支出する。

初年度) 白山手取川ジオパーク内の研究発表資料などの調査・収集に努める一方、地域遺産を紹介する特別展の開催を委託実施する。

白山手取川ジオパーク推進協議会において、ジオパーク土産やイメージキャラクターのグッズの研究開発などによる魅力向上を図り、広く国内外へPRする。

市は、事業の企画調整、各種団体との協議調整を行うとともに、事業実施に係る必要な経費を負担し、事業実施を支援する。

2年目) 前年の事業実績を踏まえ、白山手取川ジオパーク推進協議会において、白山手取川ジオパーク内の資源や地域遺産について研究に携わっている大学生、大学院生等を対象に、1件につき上限20万円の助成を行う研究助成制度を創設し、研究者の意識高揚に努めるとともに、ジオパークの学術振興を図る。

また、国際シンポジウムを開催して学術分野の研究と普及の発展並びに交流人口の拡大に向けた情報発信に努める。

引き続き、ジオパーク土産やイメージキャラクターのグッズの研究開発などによる魅力向上を図り、広く国内外へPRする。

市は、事業実施に係る必要な経費を負担する。

3年目) これまでの事業実績を踏まえ、引き続き、白山手取川ジオパーク推進協議会において、白山手取川ジオパーク内の資源や地域遺産について前年度に創設した研究助成制度の活用による学術振興や、ジオパーク土産、イメージキャラクターのグッズの研究開発などによる魅力向上を図り、広く国内外へPRする。

また、ジオパークに関連する質問項目を盛り込んだ「白山検定」の

開催や、ジオパークをPRしたラッピングバスを走らせることにより、白山手取川ジオパークを広く啓発し、誘客促進につなげる。

引き続き、市は、事業実施に係る必要な経費を負担する。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

基本目標「白山から日本海の豊かな自然と歴史・文化を活かした『観光・交流』創生戦略」の、山・川・海の魅力を活かした交流人口の拡大として位置付けられ、地域の魅力の向上と発信の中で、ジオパークの活動等を通じて、市内の魅力の再発見に努めるとともに本市の地域資源を活かした活動を支援することにより、総合戦略の成果指標である観光入込数の目標（H26：495万人→550万人）達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	白山手取川ジオパークを活用した プロモーション事業		年月
	KPI	ツアー参加者数	
申請時	-	5,200,000人	H29.3
初年度	150人	5,300,000人	H30.3
2年目	250人	5,400,000人	H31.3
3年目	400人	5,500,000人	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

白山手取川ジオパークを活用したプロモーション事業	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	15,750	15,000	15,000	45,750
区分	委託料	5,250	4,500	0	9,750
	工事請負費	0	0	5,000	5,000
	負担金、補助及び交付金	10,500	10,500	10,000	31,000

(7) 申請時点での寄附の見込み

(単位：千円)

年度	H29	H30	H31	計
法人名	(株)北國新聞社	(株)北國新聞社	(株)北國新聞社	
見込み額(千円)	10,000	10,000	10,000	30,000

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

毎年度、KPI であるツアー参加者数を、市関係部署が取りまとめて、本市の総合戦略推進委員（金融機関、大学、商工会議所、JA、市民団体の代表者、労働団体の代表者）により、事業の結果を検証し、必要に応じて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

毎年度、外部有識者（総合戦略推進委員）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに白山市ホームページ上で公表する。

(9) 事業期間 平成 29 年 4 月～平成 32 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置 該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

白山白川郷 100 kmウルトラマラソン大会事業

事業概要：白山の名前を全国にアピールして、知名度アップを図り、交流人口の拡大及び誘客を推進するための事業として、白山白川郷ホワイトロードを駆け抜けるウルトラマラソンを開催する。

実施主体：白山白川郷 100 kmウルトラマラソン実行委員会（白山市、白川村、白山林道振興協議会で構成）

事業期間：平成 25 年度から実施

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業の KPI であるツアー参加者数について、公表する。また、総合戦略推進委員（金融機関、大学、商工会議所、JA、市民団体の代表者、労働団体の代表者）により、事業の結果を検証し、次年度の事業手法を改良する。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度、外部有識者（総合戦略推進委員）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに白山市ホームページ上で公表する。